

パッケージ一覧 : フル パッケージ リリース日 : 2010 年 3 月 23 日

製品 : DocAve® 5.4.2.0

新機能

- **管理機能の強化**

DocAve 5.4 には、新規 STSADM SP2 コマンドや preupgradecheck などを含むパラメータの統合など、全体管理モジュールへの強化点が多く含まれています。これにより、管理者は SharePoint へのアップグレードを計画しやすくなります。また、管理者は STSADM のオペレーション プロファイルを他のファーム、またはリモートのファームへとアップロード / ダウンロードしてこれらのコマンド スキームを実行することが出来ます。全体管理には、Window 環境でアクティブな Active Directory ユーザーのみを SharePoint へとインポートする為の機能や、セキュリティの検索結果をエクスポートして一括で SharePoint の権限を変更する為の機能等の強化点も含まれます。

- **高度なレポート機能**

DocAve 5.4 では、管理者は SharePoint サイトへのユニークなアクセスを追跡することが出来ます。このデータは他の DocAve モジュールや SharePoint Web パーツなどに使用して、アクセスの多いサイトに適切なトラフィック管理がされていることを確認することが可能です。また、管理者はレポート ポイント テンプレートを 사용하여、お使いの SharePoint 環境内のサイトおよびサブサイトの状況を自動でスケジュールして統一されたレポートで実行することが出来ます。これらのレポートは、閲覧やその他の用途の為に Microsoft Excel へエクスポート出来ます。

- **移行モジュールのスクリプト化**

DocAve 5.4 では、以下の追加コンテンツ管理タイプにおいて、CLI (コマンド ライン インターフェイス) から SharePoint への移行のスクリプト化をサポートします。

- ・ Exchange Public Folders (CLI)
- ・ UNC マウント ファイル シェア システム
- ・ EMC Documentum
- ・ Open Text Livelink

すべての DocAve 移行において、データの完全忠実性および移行単位の粒度選択機能は保たれます。

- **データ保護機能**

最小単位バックアップ プランで新規に追加されたコンテンツ フィルター ポリシーを適用することで、必要なデータのみをバックアップに含めることが出来ます。

サイトごみ箱では、キャプチャした削除済みのサイトを外部のファイルシステムへエクスポートし追加ストレージとして使用することで、リカバリーの機能を拡張出来ます。また、データ プルーニング機能が追加されたことにより、削除済みサイトのデータがお使いの SharePoint 環境のパフォーマンスに悪影響を与えないように構成出来ます。

- **セキュリティ コンプライアンスの強化**

お客様からのリクエストに応え、DocAve 5.4 には、管理者が DocAve を通して参照することの出来るデータを、全体管理コンソールからユーザー固有の閲覧権限が付与されているファーム ツリーおよびレポートにのみに絞ります。これにより、管理者が彼らの環境上で閲覧することの出来るファイルやフォルダ名を制御している程の厳正なセキュリティ ポリシー配下でも確実にコンプライアンスに準拠することが可能になります。

改良点

- **DocAve を使用した SharePoint ユーザー権限管理**

全体管理モジュールから、管理者は DocAve または Microsoft Active Directory 内で管理されるグループへ簡単に SharePoint 権限を追加することが出来ます。DocAve 5.4 をお使い頂くと、管理者はユーザー固有の権限のコピー、他のグループから継承した権限すべてを含む、また移行先グループと同じグループにユーザーを追加する機能など、強化された制御およびクローニング機能をグループに対して使用することが出来るようになります。

レプリケーター モジュールを使うことで、管理者は移行元ファームの 1 ユーザーと移行先ファームの複数ユーザーを複製することが出来ます。また、構成は簡単かつ堅牢なユーザー マッピングで設定し、保存、再利用することが出来ます。

- **クラウドストレージ プロバイダ サポート**

パートナー クラウド ストレージ プロバイダである RackSpace のサポートに続き、DocAve 5.4 では Amazon S3 および Microsoft Azure のサポート機能を追加しました。

- **コンテンツ データベースの選択**

DocAve 5.4 では新規に作成及び移行されたサイト コレクションに対してコンテンツ データベースを指定することが出来ます。これにより、管理者は新規サイト コレクションのタスクをサイト コレクション管理者へ委譲する際にフルコントロールをシームレスに委譲することが可能です。

- **オフライン レプリケートの強化**

オフライン レプリケートに、双方向レプリケートの機能が追加されたことで、SharePoint と指定されたオフラインのロケーションが最新の情報やデータを共有出来るようになりました。

- **高度なコンテンツ制御**

管理者はコンテンツ マネージャーを使用してリスト添付の移動の有無を選択することが出来ます。

既知の問題

- **連結済みコンテンツのレプリケート**

DocAve は DocAve ファイルサーバー コネクタ for SharePoint のスタブを含むフォルダーのレプリケートは現時点ではサポートしていません。これは、DocAve 管理モデルによるセキュリティ制限による仕様ですが、DocAve 5.5 にて修正されます。

- **Microsoft 2007 .xlsx 構成ファイルのインポート**

DocAve は現時点では、セキュリティ センターへの .xlsx 形式のセキュリティ構成ファイルのインポートをサポートしていません。一括セキュリティ レプリケーションとして使用する構成ファイルは .xsl または .csv 形式として保存する必要があります。

- **IPv6 プロトコルの安定性**

現在、IPv6 環境で特定の DocAve モジュールを使用すると、予測不可能な結果となる場合があります。IPv6 環境を使用して DocAve が不安定になった場合は、ナレッジベースを確認した上で、弊社サポート担当までお問い合わせください。

- **共有サービス プロバイダのリストア**

DocAve 5.4 を使用して共有サービス プロバイダを別の場所へリストアするには、共有サービス プロバイダを作成したユーザーが別の場所へのリストア作業を実施する必要があります。これは、共有サービス プロバイダのアーキテクチャによる仕様ですが、解決策を現在開発中です。

- **Microsoft Server 2008 上の連結されたメディア ライブラリ**

Microsoft Server 2008 R2 環境で連結されたメディア ライブラリを使用するユーザーは、メディア ライブラリでビデオを再生する前に、予め " デスクトップ エクスペリエンス " の機能をアクティベート化する必要があります。